

**製品名:** リン酸化JNK1/2/3(T183+T183+T221)ウサギモノクローナル抗体

**カタログ番号:** AMRe83788

研究使用のみ

## 概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ICC,FC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウム、0.05% 保護タンパク質、50% グリセロールを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:2000,IHC 1:100-1:200,ICC/IF 1:50-1:200,ICC 1:50-1:200,FC 1:20-1:100,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW: 48,53 kDa ; Observed MW: 46,54 kDa

## 抗原情報

遺伝子名	Phospho-JNK1/2/3(T183+T183+T221)
別名	JNK 46; JNK 55; MAPK10; MAPK9; MAPK8; SAPK1b ; SAPK1; SAPK; PRKM10; PRKM9; PRKM8;;p-JNK1/2/3 (T183/T183/T221)
遺伝子 ID	
SwissProt ID	P45983/P45984/P53779
免疫原	T183 のリン酸化部位周辺のヒト JNK1 由来の合成ペプチド

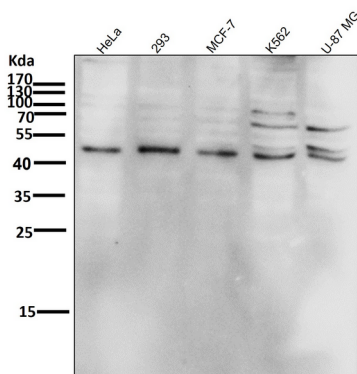
## 背景

セリン/スレオニンプロテインキナーゼは、細胞増殖、分化、遊走、形質転換、プログラム細胞死といった様々なプロセスに関与しています。炎症性サイトカインや物理的ストレスなどの細胞外刺激は、ストレス活性化プロテインキナーゼ/c-Jun N 末端キナーゼ (SAP/JNK) シグナル伝達経路を刺激します。

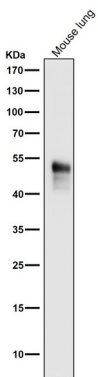
## 研究分野

-

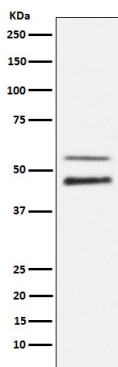
## 画像データ



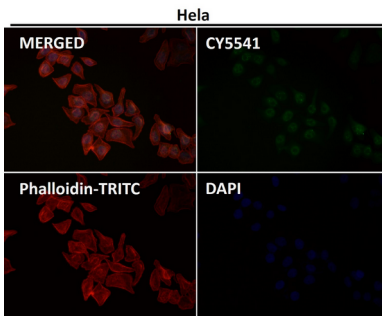
すべてのレーンでは、抗体を 1:1K に希釈して室温で 1 時間使用します。



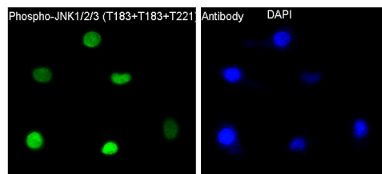
すべてのレーンでは、抗体を 1:1K に希釈して室温で 1 時間使用します。



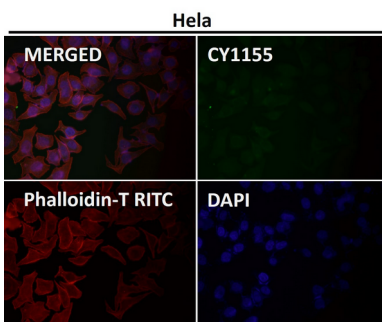
アニソマイシン処理した NIH/3T3 細胞溶解物における JNK1/2/3 リン酸化発現のウエスタン プロット分析。



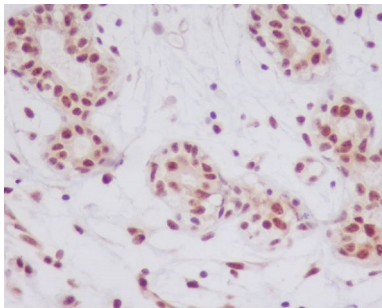
1:50 希釈の抗体を使用した免疫蛍光分析。



アニソマイシン処理した NIH/3T3 細胞を、Phospho-JNK1/2/3 (T183+T183+T221) 抗体を使用して免疫蛍光分析しました。



1:50 希釈の抗体を使用した免疫蛍光分析。



リン酸化 JNK1/2/3 (T183+T183+T221) 抗体を使用したパラフィン包埋ヒト乳房の免疫組織化学分析。